

# ベルクソンと災厄

今、『道徳と宗教の二源泉』を読み直す

2011年10月24(月)・27(木)・29(土)日

## プログラム (発表はすべて仮題)

プレ・イベント:若手研究者セミナー 10月23日(日)15時 - 17時、東京・法政大学、58年館2階 国際日本学研究所セミナー室

**第一日:道徳——『二源泉』第一章を読み直す** 10月24日(月)、東京・法政大学、ボワソナードタワー26階A会議室

**セッション1:開かれた道徳とカタストロフ(10時 - 12時30分) 司会・対話者:合田正人(明治大学)**

ポール・デュムシエル(立命館大学):開かれた道徳と道徳的カタストロフの概念

安孫子信(法政大学):悲劇と災厄の間で

アルノー・フランソワ(フランス、トゥールーズ第二大学):リスクと決定——『道徳と宗教の二源泉』におけるベルクソンの悲劇の哲学のために

**セッション2:出来事と人格(14時30分 - 17時) 司会・対話者:安孫子信(法政大学)**

平井靖史(福岡大学):出来事と人格

増田靖彦(早稲田大学):ベルクソンの直観理論における人格的なものと非人格的なもの

ヨハネス・シック(ドイツ、ユリウス・マクシミリアン大学ヴェルツブルク):ベルクソンとレヴィナスにおける存在論の痛み

**共同討議(17時 - 18時) 司会:安孫子信(法政大学)**

**第二日:宗教——『二源泉』第二・三章を読み直す** 10月27日(木)、京都・京都大学、百周年時計台記念館・国際交流ホール

**セッション3:動的宗教とカタストロフ(10時 - 12時30分) 司会・対話者:藤田尚志(九州産業大学)**

フレデリック・ヴォルムス(フランス、リール第三大学):カタストロフに対する道徳的・宗教的・政治的な二つの答え——ベルクソンから今日へ

杉村靖彦(京都大学):〈生〉の証人——哲学的なものとの宗教的なものとの間で:〈災厄後〉という視点からの『二源泉』再読

**セッション4:神秘主義の問題(14時30分 - 17時) 司会・対話者:杉村靖彦(京都大学)**

岩野卓司(明治大学):笑い、神秘経験と死——ベルクソンとバタイユ

ジスラン・ヴァテルロ(スイス、ジュネーヴ大学):ただ神秘学だけがなお我々を救うのか?

——ベルクソンにおける技術力と神秘的生の関係に関する考察

フロランス・ケメックス(ベルギー、リエージュ大学):神秘学・科学・政治——人類にとっての三つの道?

**共同討議(17時 - 18時) 司会:杉村靖彦(京都大学)**

**第三日:政治・戦争・技術——『二源泉』第四章を読み直す** 10月29日(土)、福岡・九州産業大学、15号館103

**セッション5:技術・戦争・抵抗(10時 - 12時30分) 司会・対話者:金森修(東京大学)**

檜垣立哉(大阪大学):ベルクソンにおける技術(テクネー)の問題

カテリーナ・ザンフィ(イタリア、ポローニャ大学):『二源泉』における機械学と戦争

チプリアン・ジェレル(ルーマニア、アレクサンドル・イオン・クーザ大学):抵抗に抵抗する——仮借なきものと方策

**セッション6:記憶の政治学(14時30分 - 17時) 司会・対話者:檜垣立哉(大阪大学)**

合田正人(明治大学):純粹記憶の解釈学

アルノー・ブアニッシュ(フランス、リール第三大学):「人類を変革する」——ベルクソン、フッサール、そして刷新の問題

藤田尚志(九州産業大学):記憶しえぬものの記憶——ベルクソンとレヴィナス

**共同討議(17時 - 18時) 司会:藤田尚志(九州産業大学)**